

(24) 蘇聯邦漂流水ノ飛行機引揚ニ係スル件

24

F-0393

0248

歐亞局

高外秘第四二五三號

昭和十三年十一月十四日

第一號

航空部事務官 佐藤 啓

昭和十三年十月十九日接受

樺太總長官 陳 居 俊

(審 察 部 長)

拓務大臣 八 出 嘉 明 殿

内務大臣 末 次 信 止 殿

外務大臣 有 田 八 郎 殿

北海道廳長官 石 炭 英 彦 殿

朝鮮總督府 督 務 局 長 殿

台灣總督府 督 務 局 長 殿

(在 京 長 官 殿)

10. F. 10. 0. 18

蘇聯邦源流水上飛行機引揚ニ關スル件

客月十五日午後二時五十分頃菅下急須取ヲ出港、原奈川縣川崎ニ同ヶ航行
中ノ木原崎所屬、木初積取船東成丸ハ菅下海島島ヲ距ル西方約十八海
ノ地點ニ於テ、蘇聯邦水上飛行機ト思料セラル、モノ源流中ナルヲ發見
セル旨無線電ニテ通報セリ、依テ同月十六日不明ヨリ富縣所屬第三鈴谷丸
ヲ出動搜索セシメタルモ、迄ニ發見スルニ至ラザリシ處、同月二十四日「
フロート」一箇及片翼ノ破損セル部分(菅下)平斗町沿岸ニ漂着シ翌二
十五日午前七時二十分頃平斗町好仁村大字白牛子音羽五番地鮮人金達鉉
ハ沖合一艇半ノ海上ニ飛行機破損、源流セルヲ發見、報出セルニヨリ同月
二十七日午後三時頃機體ヲ平斗港ニ曳行シ來リ、同港船入船荷上場ニ陸揚
ヲ了シ、其ノ機體ヲ軍部ニ委ネタルガ其ノ經過(當時拓務(貴)官ハハ
屢次電報シ北海道(貴)廳ハハ手配済)及機體ニ關シ調査セル状況左記
ノ通り有之

右 申 (通) 報 ス

記

一、國籍及所屬

蘇國、沿海州ソウエート灣南地部隊

二、機種型式發動機

1、車乘輕爆擊機

2、エム、ペー、エル、二型 ナンバー 3

3、エム、十七水冷六百馬力發動機一個

三、機体ノ構造裝備、性能

1、木製全長約十三米全高約六米全幅約十九米裏面積五五平方米

翼ハベニヤ材料ヲ以テ作り其ノ上ニ亞麻製ノ布ヲ貼り更ニ別種ノ布ヲ以テ覆ヒ銀色ノ塗料ヲ流シタルモノ、如シ

胴体前方部及兩翼ニ赤キ五ツ星ノマークアリ翼ノマークハ色褪セ直徑

約一米二十位ナリ胴体ハ發動機船型ニシテ其ノ構造ハ概不異ニ似タリ

只浸水部分ハ黒色タールノ如キ塗料ヲ施ス

フロートハ魚型水雷型ニシテ長二米七九最大周圍約一米七〇其他概不

異ノ構造ニ類似ス

2、胴体前方部及中央部ニ機銃銃裝備ノ箇所ニアリテ前方射手席ヨリ實

彈ヲ裝填セル保彈銃（形卷尺ノ容積ノ如キ）十個並見シ中ニ各三十發

ノ實彈ヲ有ス保彈銃ハ三十連發ノ仕組ニシテ最初發射スル三發ハ發煙

彈ニシテ着彈距離及着彈點ヲ定メ次ニ射突彈ト交々射出スル裝置ナリ

胴体中央部ハ一室ヲ形成シ兩側ニガソリシタンク二個アリ天々ガソリ

ン充滿ス

胴体中央部近クノ兩翼内ニモ補助タンク二個ヲ有ス

無線電信機一揃アリ胴体前方部ニアル射手席ハ無線室ヲ兼ね射手ハ時

ニ偵察ト無線ヲモ兼ヌルモノト認メラル

爆弾懸吊機ハ兩翼ノ下部ニ八個ヲ有ス

電氣スキツチ式ニ依リ目田ニ投下ジ得ル装置ニシテ胴体近クニ大ナル

爆弾ヲ吊ス

3、航程期間

爆撃機艇ノ場合 七時間

偵察機ノ場合 十時間

4、本機ハ發動機ヲ翼上ニ有シ特異ノ外形ヲ爲スモノニシテ偵察機トモナリ輕爆トモナリ得ルモノニテ型ヨリスレバ偵察機ノ大型ノモノハ輕爆ナリ依ツテ主タル任務ハ何レデアルト一概ニ斷定シ得ズ

5、爆彈 載量 不明

四、搭乗者

1、偵察者 シードロフ

外ニ二名乃至三名搭乗者アリト認メラルモ職名不詳

五、飛行ノ目的及發見セル通信筒ノ内容

1、發動機艇エス、ペー一號ニ通信筒投下ノタメ

2、通信筒ノ内容（原文譯）

クーフシンスキ、セリボト野榮物ノ任意量ヲ契約セラレ度シ、電報ニテ其ノ品目數量ヲ傳達セバ彼ハ供給スルナラン契約締結ヲ最重要任務ト心得ベシ

一九三八、一〇、一一日 發信

六、不時着ノ原因及日時

1、發動機ノ故障ニ因ルモノト認メラル

2、前記通信筒ヲエス、ペー一號發動機艇ニ投下スベク飛行セルモ其ノ

目的ヲ達セザル點ヨリ觀レバ十月十一日飛行シ始メ同日不時着セルモノト認メラル

七、搭乗者生死ノ判斷

1、搭乗者ハ全員救出サレシモノト判斷セラレ其ノ理由ハ不時着ノ前後ニハ相當時間的餘裕アルモノナルヲ以テ救助ノ無線ヲ打チタルモノト見ラレ又重要參考材料ハ通信筒ヲ除キ皆無ニシテ無線室ヨリ圖表ヲ發見是ヲ調査スルモ何物モ無ク殊ニ通信用紙、暗號帳等見當ラズ救助サレシ際重要ナル資料ハ悉ク持出シタルモノト想像セラレ更ニ不時着以後二週間以上ヲ經過シ機本ハ風浪ニ揉マレ漂流シタリトスルモ其ノ間重要資料全部ガ散逸シタリトハ解サレザルニ因ル

2、若シ不時着後機本ヨリ離サレ死亡シタリトセバ救命胴着ヲ直去リニスルトハ解サレズ現在ニ至ル迄死体ノ漂流セザルコトハ無ク更ニ本國ヨリ救助ニ出動セルモノ本飛行機ヲ見出し待ズ若ハ發見セルモノ救助不能ニ終リタリトセバ必ズヤ駐日蘇國官憲ニ此ノ顛末ヲ無電シ我國ニ照會スルニアラズヤト考ヘルガ安當ナリト信ズ

以上ヨリシテ搭乗者ハ偵察者シドロフ外救助サレシモノト認ム

八、漂流當時ノ狀況

1、十月十五日日本原商船所屬東成丸ハ惠須取ヲ出港神奈川縣川崎港ニ向ケ航行途中管下海馬島西約十八哩、本斗港ヲ距ルコト約四十八哩、東徑一四〇度五十分北緯四六度二一分ノ位置ニ興及胴体ニ赤キ星トナンバー8ト記シ機銃ヲ裝備セル本飛行機漂流シアルヲ發見シタル旨無線電シタルヨリ觀レバ當時ハ不時着後四、五日ヲ經過セルモノニシテ原形ノ漂流中ナリシト認ム

2、同日二十三日午前九時五十分山下汽船會社所有北光丸ハ惠須取ニ向

ケ航行途中北緯四六度三七分東經一四一度三二分本斗町沖合約十四哩ノ位置ニ本飛行機漂流中ヲ發見シ其ノ近クニテ救命胴着一個ヲ引揚ゲタルノミシテ約二時間後ニハ機体ヲ見失ヒタル旨ニシテ發見當時ノ模様ヲ同日午後七時北元丸ヨリ攝取スルニ

一、蘇聯國籍ト認ム

二、翼ノマーク不明

三、胴体番號不明蘇聯マークアリ、

四、水上機類復漂流ノ爲メ其他不明

五、發見セシヨリ應須取ニ向ケ航行シ往復二時間後ニ發見當時ノ位置ニ

引揚ヘタル時ニハ波高ク機体ノ小ナル爲メ見當ラズ、初メ漂流シテ居

ルノヲ見タ時ハ頗後シ翼ト一個ノ小フロートヲ天上ニ向ケ發動機

ハ墜落シ其居ル様ニ見エマークハ胴体ニアリキモ真中ナリ破

レ色褪セテ居ルモ色ヨリシテ蘇聯マークニ相違ナシ當時潮流ハ北東ニ

流レシ關係上十五日東成丸發見地點ヨリ此ノ地點ニ漂流セシモノト認

メラル。

3、翌二十四日正午頃本斗町大字本斗字北本斗船入洞入口附近ニフロ

ト一個漂着中ヲ同地九番地漁業佐藤三郎當三十九年外一名ガ拾得シタ

ル旨届出アルヲ以テ現場ニ赴キ檢スルニ前記ノ通りニシテ更ニ同日午

後四時頃本斗町字兩濱通二丁目番外地漁業任吉金作ノ妻ハル當四十七

年ハ自宅裏海岸ニ於テ片翼ノ破損セル一部分ヲ拾得セルニ依リ檢スル

ニ銀色ノ布片ニ赤キ星ノ破損セルモノヲ認ム

4、翌二十五日午前七時二十分頃本斗郡好仁村大字白牛字音羽五番地漁

業鮮人金達鉸當五十年及同地漁夫菊地菊太郎當五十一年ハ蝶配繩作業

中音羽五番地金達鉸萬沖合約一哩半ノ海上ニ約二間位ノ黒キ漂流物ヲ

発見シ船地へ鯨ナル旨申シタルモ金運鉉へ鯨ニアラズ難破セル漂流發
動機船ナルヤモ知レス現場ニ赴クコトニ一致シ現場ニ行キタル處本飛
行機ノ漂流ナルコト判明シタリ依テ兩名ハ早速所持セルローブニテ機
体ノ一部ニ縛リ流ニ流サル、ラ微力ナガラ制シツ、本斗郡好仁村大
字白牛字遊牛四番地幸京秀方前沖合約日間ノ地點ニ曳行シタルモノナ
リ、発見當時機体ハ轉覆シアリ且大部分海中ニ没シ胴体下部ガ上トナ
リ其ノ一部ガ海面三、四寸位現ハレ機翼ハ左翼短カク右翼ノ長約九米位
位アリ、尾翼ノ破折セル箇所ヨリ胴体先端迄約九米位アリト認メラル

九、搜索状況

1、十月十六日午前五時三十分樺太廳所屬第二鈴谷丸ニ警察官三名便乗
シテ出動セシタ同日十一時頃四十八湮航行シ所定ノ位置ニ着シ潮流ト
風向ヲ調査シ千鳥型ニ南下二十五湮ニ亘リ搜索スルニ當日ハ西北風強

ク雨雪ヲ伴ヒ視界極度ニ狭ク搜索ニ効果薄ク午後四時五十分海馬島ニ
假泊投錨セルモ同搜索從事中午後一時頃海馬島ノ西南方十三湮ノ地點
ニテ漂流浮標一個ヲ発見檢スルニ高さ一尺三寸直径約九寸一斗二升ノ
容積ヲ有スル樽ニシテNト印スルアルモ漂流飛行機ニ關セザルモノ
ト認ム

2、第二日(十七日)

午前五時三十分海馬島ヲ拔錨北海這禮文方面ニ向ケ搜索ヲ開始セルモ
航行中同六時頃ヨリ北方ノ強風ニ雨雪ヲ伴ヒ波浪高ク航行困難トナリ
同七時二十八分止ムナク海馬島ニ避難假泊セリ
當日ハ稚斗連絡船缺航シ海馬島ニハ北日本汽船會社所屬交通丸避難シ
居レリ

3、第三日(十八日)

午前六時三分海島ヲ發シ福文島西北ニ約四十五哩航續搜索スルニ午
前十時頃ヨリ南方ノ風強ク雨ヲ伴ヒ視界全ク狭ク荒天ノ爲メ沖合航行
ノ危険ヲ認メ搜索地域ヲ變更シ午前十一時三十九分宗谷海峡沿岸ヲ搜
索シツツ午後四時稚内ニ入港ス

4、第四日（十九日）

風波募リ搜索出動困難ナルヲ以テ待機ス

5、第五日（二十日）

午前二時稚内ヲ發シ歸途宗谷海峡ヨリ海島、禮文間方面ニ若干沖出シ
近海搜索ヲ爲シツツ正午止ムナク本斗ニ歸港ス

右ノ通りナルヲ以テ一應搜索ヲ打切りタル處二十三日本斗沖合約十四哩
ニ漂流飛行機ヲ發見セル旨北光丸ヨリノ無電ニ依リ直チニ搜索ニ出動ス
ベク本斗淀泊中ノ第二鈴谷丸ニ指示セル處折廻ク機長參廳ノ爲出動シ

得ザル爲第五號丸ニ交渉出動セシム

1、十月二十三日

同日午後二時頃本斗海陸運糧會社所屬第五號丸ニ警察官二名便乗出動
セシメ所定ノ位置ニ向ケ航行セル處同三時四十分本斗西沖合約十三哩
ニ於テ北光丸ニ出會ヒ發見當時ノ状況ヲ聞知セルニ發見地點ヨリ二時
間航行後原位置ニ引戻シタル處遂ニ本機ヲ見失ヒタル旨ニテ其際北光
丸ハ只救命胴着一個ヲ拾得セルノミナルヲ以テ是ヲ引渡シテ受ケ南方
ノ強風波浪高キヲ冒シツツ約一時間ニ亘リ北光丸ト協力附近一帯搜索
セルモ日没トナリ不可能トナレルヲ以テ第五號丸ハ本斗ニ歸港午後六
時十分着北光丸ハ應須取ニ向ケ航行セリ

2、翌二十四日午前十一時第二鈴谷丸、第五號丸ノ兩船ニテ搜索ニ出動
各警察官二名ヲ分乗セシメ第二鈴谷丸ハ本斗沖約十五哩ノ地點ニ到着

後千鳥型二本斗子知根平沿岸ニ向ケ搜索ニ當リ第五號丸ハ約十二哩ノ
地點ヨリ更ニ陸岸ニ寄リツツ千鳥型ニ相互ニクロススル様搜索セルモ
日没トナリ視界利カズ絶望シ午後四時三十分頃歸航ニ着キ同六時十分
本斗ニ歸港セリ

3、翌二十五日更ニ第二鈴谷丸ヲシテ午前九時三十分頃沿岸ノ搜索ニ出
動セシメ一方機体ハ分隊シ沈没セントモ考ヘテレタルヲ以テ沈没セル
ト思シキ位置ニ網ヲ掛クベク其ノ準備ノタメ本船ハ搜索シツツ眞岡迄
航行中ナル處同日午前十時頃好仁村子音羽ニ機体鉤見セルニ依リ本斗
斗ニ歸港セリ

10 措置

1、十月二十五日午前十時頃好仁村子音羽沖合ニ飛行機ト思シキ漂流物
アル旨聞知シ兩名好駐在巡查ハ直チニ附近住民約十名位ヲ召集シ四隻
ノ機船ニ分乗シ現場ニ赴キ機体ニロープヲ縛リ遊牛ニ引湯ゲント爲シ
タルモ機本ハ相當重量アリ作業不能ニシテ白牛太田石太郎方發動機漁
船ヲ動員シ曳行セントシタルモ春久丸六馬力ニテハ牽引力ナク更ニ音
羽居住北瀬、佐田兩名ノ發動機船ヲ動員セムトシタルニ好天ノ爲メ出
漁中ニテ止ムナク内幌ニ手配シ同地本間漁場所有金福丸十馬力ノ應援
ヲ求メ内幌船^羽ヘ曳行セムトシタルニ潮流ニ妨ゲラレ作業容易ナラザ
ル爲更ニ同地ヨリ第二幸違丸三十馬力、第二廣徳丸四十馬力ノ三艘ヲ
現場ニ急航セシメ午後二時遊牛ヲ鉤シ同六時内幌淺橋附近ニ曳行緊留
シタリ

2、翌二十六日本斗ヨリ潜水天ヲ連行先ヅ潜水ニ依リ海底ニ於ケル機体
ノ轉覆状態ヲ檢セシメタル處發動機ハプロペラト海底砂ニ五寸位突
入シテ居リ胴体其他ニロープヲ結ビ付ケ機体ヲ引起スベク發動機船ヲ

シテ牽引作業スルモ前後二回ニ亘リ試ミタルモ遂ニ失敗セルタメ是ニ
テ一應打切り

3、翌二十七日瀧々島襲撃ノ結果本斗港ヨリ樺太廳本斗築港事務所所有ノ
二十五噸巻起重機ヲ午前八時半ニ現場ニ曳航セシメ同十時現場着直チ
ニ作業ニ從事シタル處容易ニ機体ヲ吊リ揚グルコトヲ得午後一時頃全
ク作業ヲ了シ起重機ニ吊リ揚ゲタル儘本斗港ニ曳行シタリ
午後三時頃本斗船入洞ニ着同船洞何上場ニ引揚ヲ了シタリ

一、其他參考

1、我國ノ飛行機ハ最も進歩シテキル故此ノ飛行機ノ何レノ部分モ使用
シ製作ノ參考ニナルトハ考ヘテレズ即チ保彈飯ニシテモ内部ノ螺旋狀
パネガ弛ムト彈ノ射出不能ニナル如シ只尋常家が一見スルト其ノ性能
ヲ容易ニ窺知スルコトヲ得此ノ見地ヨリ國防上ノ參考資料タルベシ

2、爆彈懸吊機ハ電氣裝置デナク滑車ガアルカラ研究セネバ詳細不明

3、無線電信用真空管ハ尋常家ニ見セルト波長ガ分ルダラウ

4、發動機ノ解本中黒色ノ油ヲ發見セルガ發動機ノ摩擦ヲ防グ爲メニ使
用スルモノデ蘇聯ノ悉サニ凍ラヌ様ナ油ヲ使用シテキル如ク興味アリ

5、性能ニ關シテハ

イ、速力時速 一五〇軒

ロ、航續時間 六時間

ハ、發動機ハ元元獨乙製ノ名稱不詳四五〇馬力ヲ改造セルモノニシテ我
國デモ以前ハ是ヲ獨乙ヨリ輸入シ改造シ五五〇馬力トシテ八八式偵
察機ニ使用セルモ現在ハ使用セズ

6、本機ハ蘇聯ニ於テモ舊キ型ニ屬シ優秀ナル飛行機デハナク恐ラク戰
闘ニハ用ヒザルベク主タル任務ハ漁船ノ監視其ノ他ヲ如ク察セラレ通信

筒内容ノ任務モ容易ニ了解サレ而シテ賞彈所持モ其ノ場合ノ威嚇或ハ日本漁船等ニ漏ヘルモノト認メラル

7、蘇國ノ飛行機ハ本機ノミナラズ現在戦争テ落サレルモノモ殆ンド木製ノモノニシテ又發見サレシ信託用ノ手旗ノ造リ方等モ續ギ合ヘセ極ク粗雑ナルコトヨリ見テ本國ニハ資材ガ乏シキカ又ハ工場不足ト見ラル

8、「ソウエート」灣ハ沿海州ニ在リ本斗ノ對西北岸ノ地點ニ位シ「デカストリート」ト共ニ沿海州ノ最重要據點ニシテ陸軍ノ根據地デアルハ勿論恐ラク海軍ノ根據地モ在ルコトナルベシ

9、樺太西海岸殊ニ内幌岬溜工場、惠須取以北炭礦地帯ガ將來對ソ關係急迫ノ時危險ナリト稱セラル、ハ對岸ノ「ソウエート」灣ヨリ軍艦ヲ以テ攻撃セラル、ト考ヘラレルニ因ルモノナリ、「ソウエート」灣ニハ各種ノ部隊ガアリ是ヲ線帶シテ「ソウエート」灣衛地部隊」ト謂フ可シ

10、本機ハ飛行艇ナルヲ以テ「ソウエート」灣ニハ海軍根據地ガアルニ相違ナシ

11、沿海州方面ニ於テ最近蘇國大海軍演習行ヘレ朝鮮近ク「アスコールド」島沖合ニハ蘇國軍艦、飛行機等頻繁ヲ極メテ居ルトノコトニ對シ本飛行機ノ漂流ト何等ガ關係ナキヤト考ヘラル、モ「アスコールド」島附近ヲキ沿海州ト稱スルヤ又本斗ノ對西北岸ニアル「ソウエート」灣迄一帯トスル演習ナリトハ考ヘラレザルモノ、如シ從テ以上ヨリシテ本機ハ通信筒内容ニアル任務ヲ帶ビ飛行セルノ外他ニ目的任務ヲ有セザルモノト解セラル

本機ニハ搭乗者ナキ爲メ情報蒐集ハ通信筒内容ヲ唯一ノ參考資料トシ他ハ機体ヲ通ジテ觀測セルモノニシテ以上知悉シ得ズ